

調査期間 2016年3月16日～継続中
所在地 伊勢原市上粕屋字雷
時代 近世、奈良・平安、縄文、旧石器
調査原因 国土交通省による厚木秦野道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北方約3kmに位置する台地稜線平坦面から南縁部緩斜面に位置する。



主な調査成果

国交省調査範囲の7区は、平成22年度に調査された上粕屋・和田内遺跡1次調査の西隣にあたり、上粕屋扇状地を南に見下ろす小丘陵の頂部に位置しています。

表土直下はローム面で、後世の造成により自然地形が大きく改変されている様相がみとれますが、近世・古代・縄文時代の各時期の遺構・遺物を検出しています。近世では、長方形土坑群の他、南北方向に走る溝2条を検出しました。溝の東西は比高差のある平坦面となっており、段状の生活面が造成されていたことが伺われます。古代では、南の丘陵縁辺部に沿って竪穴住居跡と掘立柱建物跡とが列をなすように展開し、その北側に東西方向に走る杭列と溝とを検出しました。杭列の南には長軸約1m深さ120cmの楕円形プランを有する大型土坑も検出されています。5月現在、縄文時代の調査を進めており、集石等を検出しています。今後は旧石器時代の調査に進みますが、表土直下のローム面で既に200点以上の剥片が出土しており、今後の展開が期待されます。



古代面作業風景（西から）



H5 竪穴建物確認状況（東から）



H1大型土坑土壌堆積状況（東から）



J1 集石検出状況（北から）